

地域の子どもたちの健やかな成長を願って

けんもり 特別支援教育だより

岡山県健康の森学園支援学校

編集

けんもり支援センター
相談・研修支援部（教育支援係）
第4号

平成30年 3月 1日発行



～地域の中での学び～ 岡山県健康の森学園 アンテナショップ「森のおみせ」

「いらっしゃいませ。」
「新鮮なお野菜いかがでしょうか。」
「私たちが作った製品です。御覧ください。」・・・
「ありがとうございました。また、お越してください。」
と気持ちの良いあいさつの声が響きます。商品を丁寧に買い物袋に入れ、笑顔でお客様に手渡します。



平成28年7月6日（水）、JA阿新に御協力をいただき、「森のおみせ」がオープンしました。新見市中心部からやや離れた場所に位置する岡山県健康の森学園にとって、新見市街地への出店は、長年の悲願でした。開店して1年半が経ち、地域の大勢の方々には足を運んでいただいています。

「森のおみせ」での学習は、丹精込めて栽培した野菜や、施設の作業や学校の作業学習で作成した製品がお客様に届く瞬間を経験できる貴重な場となっています。お客様からお褒めの言葉やねぎらいの言葉をいただくことで作業をする意欲がわいてきます。また、お客様から直接、商品に対する意見をいただくことで商品の質の向上を目指す姿勢も生まれてきます。

アンテナショップ「森のおみせ」は、地域の方々との積極的な交流をもち、実社会に近い形の学習ができる場になっています。

新学習指導要領の改訂では、学ぶことと社会のつながりを意識したカリキュラム（教育課程）をつくる「地域に開かれた教育課程」が盛り込まれています。

① 社会や世界の状況を視野に入れ、「よりよい社会を創る」という
目標を社会と共有する教育課程

② これからの社会を創る子どもたちに、社会や世界と向き合い、
人生を切り拓くための**資質・能力を育む教育課程**

③ 地域の人的・物的資源を活用するなど、目標の実現に向けて
社会と連携する教育課程

を視野に入れたものによって変わっていきます。

地域の中で豊かに暮らす力をつけるために、子どもたちの活躍の場がもっと充実するように工夫を重ねるとともに、地域の皆様との交流が広がる楽しいお店にしたいと思います。



校長 福岡孝美

学びの場「森のおみせ」で学ぶこと

毎週水曜日と金曜日、新見市高尾 Aコープあしん店敷設の休憩所内にある「岡山県健康の森学園アンテナショップ『森のおみせ』（以下、森のおみせ）」の外には、健康の森学園支援施設利用者（以下、施設利用者）や高等部生徒たち（以下、生徒たち）の元気のよい声が、響き渡ります。

実施計画の概要は、次のとおりです。

1 ねらい

- 施設利用者が丹精込めて育てた農作物や、中学部・高等部生徒が作業学習で作った製品等を学園生自らがお客様に対応しながら販売する。
- 販売活動を通して、接客マナーを学習したり、就労生活への意欲を高めたりする。
- 社会からの評価を基に、生徒や施設利用者の自信につなげるとともに、より高品質な農作物や製品などを生産しようとする意欲の原動力とする。

2 場所

Aコープあしん 〒718-0003 新見市高尾2423

「岡山県健康の森学園アンテナショップ『森のおみせ』」

※「森のおみせ」は、Aコープあしん無料休憩所を兼ねる。



3 営業日・時間・販売実習担当

- 毎週水曜日 10:00～16:00 健康の森学園支援施設
 - 毎週金曜日 10:00～16:00 岡山県健康の森学園支援学校 高等部
- ※ また、中学部生徒も、年3回程度の販売実習を行う。

4 販売物

農産品（白菜、ニンジン、サツマイモなど）、花・野菜の苗
森のたまご、キウイなどの果実
生シイタケ、乾燥シイタケ、炭、木酢液、薪、かわいい軍手
炭丸くん（消臭剤）、廃油石けん、廃油ジェル石けん、
ハーブの手芸品、森の味噌、ハーブオイルキット など



「森のおみせ」の来客数は、1月26日現在で7000人を突破しました。

一周年イベントの週、販売実習の担当の生徒の一人は緊張と不安でいっぱいな様子で、「何をすればいいか不安。できるかなあ。」と言いました。実習内容を一緒に確認し、同行することを伝えて励ましました。

さて、当日、不安と言っていた生徒は、お客様が来店されると、見違えるように生き生きと動いていました。確認していた実習内容にとらわれず、必要な仕事を見つけて、実際はフル回転で活動していました。来店のおいさつ、レジ、注文などマニュアルの内容を確実に行うかたわらで、一緒に担当する生徒を誘って協力して二人で接客したり、お客様のところに一周年記念プレゼント品を持って行き、好みのプレゼントを選んでいただいたりしていました。「森のおみせ」は本物であふれ、生徒の不安を消すのみならず、さらにモチベーションを高めるパワーみなぎる学習の場であると実感しました。

言うまでも無く「森のおみせ」は営利目的ではないのですが、生徒たちに実りある実習を提供するために、私は、一人でも多くのお客様に来ていただくための努力をすることと考えています。生徒たちが本物のお客様とのふれあいの中で得る力は、実習した生徒だけが得られる「かけがいのない宝物」です。

開店から1年半を経た現在、「森のおみせ」は地域の皆様との交流の場としても機能し始めています。

「森のおみせ」を通して、生徒たちの学びを高め、働く力を培ったり、交流したりする取組を今後も行っていきます。

（文責 地域連携係 西村重俊）

認定こども園等を対象にした巡回相談の取組

岡山県健康の森学園支援学校 教育支援係

1 はじめに

新見市障害者自立支援協議会 児童部会（以下、児童部会）は、平成27年度から新見市内の公立認定こども園・幼稚園・保育所、私立保育所、地域立幼児園等（以下、認定こども園等）を対象とした巡回相談（以下、巡回相談）を行っています。児童部会からの依頼で、岡山県健康の森学園支援学校 教育支援係（専門指導員を兼務：以下、専門指導員）が同行し、保育参観したり、ケース会に参加したりするようになりました。

本稿では、専門指導員が同行するようになってからの巡回相談の取組について記述します。

2 取組の概要

○ 巡回相談回数

- ・ 公立13園・地域立1園を訪問する。
- ・ 対象は、園・所からの依頼により、概ね3歳児以上の幼児である。
- ※ 平成27年度は計54回、平成28年度は計42回、平成29年度は計40回実施した。

○ 新見市巡回相談員（以下、巡回相談員）のメンバー・役割

所 属	役 割
ほほえみ広場にいみ 発達障害者支援コーディネーター 1名	○巡回相談の事前聞き取り ○参観後のケース会をコーディネート
ほほえみ広場にいみ 臨床心理士 1名	○巡回相談の事前聞き取り ○子どもの見立て・個別の対応方法について助言
新見市役所福祉部健康づくり課 保健師 若干名（対象幼児の地域担当）	○園との連携を図り、保護者に寄り添いながら医療及び関係機関へのつなぎ
岡山県健康の森学園支援学校 教育支援係（専門指導員） 1名	○授業づくり、クラス運営の仕方、保育室などの環境整備について助言 ○個別の対応方法について助言

3 巡回相談の流れ

- 10:00～13:00 保育（給食を含む）参観
- 13:00～14:30 ケース会（園長・所長、担任、支援員、巡回相談員）

4 実際

認定こども園等の先生方は、午睡の時間など限られた時間の中で様々な教材を用意し、授業を行っています。季節や行事などを意識した制作、木の実や花などを十分に用意し五感をフルに活用して楽しむ（遊ぶ）おままごと、園庭全部を活動場所とした遊びなど、幼児たちは、活動の中で様々なことを学び、生きる力を身に付けています。

巡回相談員は次のようなことに注目して保育参観と助言を行います。先生方の保育の工夫と助言の一部を紹介します。

（1）保育室の環境について

○ 幼児の動線

保育室の広さやトイレなどの位置は、各園・各部屋によって異なります。それぞれの保育室で何をどのように配置しているか、それによって幼児たちがどのように活動することができるかを見ます。動線に無理がある場合、テーブルや棚などの配置について助言します。

○ 幼児の目線（手掛かり）

多くの保育室で、幼児が自分で活動するための手掛かりが用意され



ています。朝の用意をするためのイラストや、一日の流れを示すスケジュールボードなどが取り入れられています。幼児の年齢や実態に応じて、様々な提示の仕方があります。

その手掛かりが大人の目線の高さであったり、幼児たちに見えにくい場所に置かれていたりする場合には、掲示場所や見せ方について助言します。

多くの園では、時計に直接矢印を貼って終了時刻を示しています。しかし、A園では時計の下に模擬時計を表示し、そこに手掛かりとなる絵カードを示していました。

○ 整理整頓の仕方

自分の物を決められた場所に片付けることは、集団生活の基本です。ロッカーの中に入れられているリュックや道具箱などがどのように片付けられているかを見ます。B園では、半透明のケースの道具箱を用いていました。「道具箱の下に手掛かりとなるイラストを貼ると自分たちで片付けるようになる。」と助言したところ、写真のような写真カードを制作されました。次回参観した時には、幼児たちは先生方に指示されなくても決められたところに自分の道具を片付けることができるようになっていました。



（2）授業づくりについて

○ 活動理解の工夫

制作活動などで教材を提示し、作り方を説明する時、幼児たちにとって分かりやすくするために、先生方は、具体物（完成形の作品）を示したり、イラストや文字で説明したり、実際に幼児たちの目の前で実演（モデリング）したりします。これらの手立てが、幼児たちに分かりやすいものだったかを幼児の目線で見るとしめます。また、幼児たちが使いたいものを選ぶように多くの教材を準備します。分かっている喜びや自己決定する経験を積み重ねられるよう工夫しています。

○ 指示や説明の工夫

集団で学ぶ場では、様々なきまりを身に付けていきます。「トイレに行って、帽子を被って、廊下に並びましょう。」などと指示する場面に出会うことがあります。その際には、「三つ話をします。一つ目は、・・・。」などと一文一動作の指示の仕方を助言します。また、言葉に文字やイラストを添えた説明は、聞くことが難しい幼児たちにとっても分かりやすいです。

○ 集団遊びの場の工夫

先生方は幼児たちの動線がぶつからず安全にのびのびと遊べるように、遊びの種類ごとに敷物を変えたり大型ブロックや机を並べたりして空間を仕切ります。遊び道具のロッカー内は幼児に分かる手掛かりとして色テープや写真シールを付けて中身や片付け位置を表示しています。

C園では片付け時に空き箱を活用していました。1歳頃の幼児は握っていたおもちゃを手放して箱に入れます。2歳頃の幼児は箱を持って歩き、おもちゃを集めて大きな箱にまとめます。3歳頃の幼児は大きな箱を先生や友達と一緒に持ってロッカーに運びます。できることは自分ですするという認定こども園等での取組が将来の自立した生活に繋がっていきます。

4 おわりに

保育現場の先生方から「どの子どもみんな笑顔で生活してほしい」「気になる行動が減り、心豊かに成長してほしい」という話を何度も伺いました。私たち巡回相談員は、毎回、先生方の真摯な取組を目の当たりにし、保育のすばらしさと難しさを感じています。幼児自身の変容は即時には難しいかもしれませんが、幼児に対するまなざしや関わり方、支援の仕方、保育環境について、ぜひ一緒に考えさせていただきたいと思います。

認定こども園等の保育の中で、幼児たちが現在持っている力を十分に発揮して成長していけるよう先生方と一緒に知恵を絞り、幼児たちの姿から適切な支援について学びたいと考えています。

（文責 光島由忠、黒瀬智子）

【参考文献】

- 「まるっと1年 マンガでなるほど 気になる子の保育」 久保山茂樹著 メイト社
- 「気になる子の視点から保育を見直す! (特別支援教育 ONE テーマブック)」久保山茂樹著